

(3) 第 2 部「エコロジーライフ&地域まちづくり」をテーマにした意見交換(要旨)

【緑町コミュニティ協議会 平田委員長】

第 2 部のテーマについて、概略的なことをお話します。太陽光発電などの新エネルギーの活用は、進めなければならないという機運はあるかと思います。都営武蔵野アパートも建替えがあり、今度は集会所もつくりますので、そこにまず太陽光発電をついたらどうかという案もあります。また、このコミセンでも、屋根に太陽光発電を設置して、その電力で冷房を使えばいいという考え方もあります。各家庭でのご要望もあるかと思いますが、市の補助金制度もありますので、どうやったら一番いいかということをお話しいただければと思います。



都営武蔵野アパートについては、建替えに伴って 1 万㎡くらいの空き地ができます。その空き地をどう利用するか。例えば、高齢者が多くなっていますので、介護施設をやってほしいとか、または、児童館は市内に一つしかないから、子どものための施設がいいのではないとか、いろんな案が出ています。もう一つには、あそこには戦争の最後の爆撃を受けた中島飛行機工場の施設が残っています。中島飛行機工場の施設で残っているのはそこしかないので、これを記念にして、展示館のようなものをつくりながら、例えば、このコミセンも狭いので、あそこを多少の拠点にして使えばいいとか、そういう考え方もあります。いろいろな案が出ていますので、ご要望があれば、ぜひ出していただきたいと思います。

回遊性のあるまちづくりというのは、サミットが出店されるわけですが、商店街も一緒になって地域を大きくしていくという意味で、みんながまちの中をあちこち行けるようにするためにはどうしたらいいかと。道路や歩道などに花づくりをしたり、ベンチをつくってもらったりとか、そういうことはできないか。例えば、きれいに花を飾るなど、商店街の歩道をもっとお客さんが来てもらえるような感じのつくりをするということ、自分たち地域住民も一生懸命やっつけていこうと考えています。

省エネの問題で、例えば、地域で買い物をすれば、車に乗って遠くまで行かないでよいということが提案されていましたが、いろんな考え方がありますので、ぜひそういうことを出していただければと思います。

1. 商店街の活性化について

【ご意見】

市長からサミットが出店すると、人出が多くなるという話があった。また、委員長から、いかにグリーンパーク商店街を支えていくかというお話もあったが、私は昨年、長期計画・調整計画の市民会議に参加したことがきっかけで、自分の住んでいる緑町に大変関心を持つようになった。今、武蔵野市だけではなくて全国的に商店街は落ち込んでいる。そういう中

で、どうしたらまちが元気になるのかということで、今年の7月に「緑町きらきらプロジェクト」を立ち上げて、グリーンパーク商店街のマップをつくった。商店街について、私たちも、ものが言いたいということがある。その前にまず、地域住民・消費者・商店が信頼関係をつくるのが大事と思って、仲間に呼びかけて、マップをつくった。つくってみたら、今まで利用していた方からも、こんないい店があったのかということで、お褒めいただいた。皆さんのお手元にも配布したと思うが、このコミセンにもあるので、ぜひ手に取っていただきたい。その反面、これではという店もある。そういう状況の中でサミットが来るのだから、十分に商店街を使いこなしても間に合わない。大型スーパーでは対応し切れない、特色のある商店街であって、安全で、地産地消で、お子さんもお年寄りも安心して使えるというようなお店をこれからどうやって手探りでつくっていくかということが大事だ。このマップをつくって、その後、高齢者総合センターの隣の空き地でコミュニティカフェをやった。約 500 人の来場者があって、武蔵野東小学校の子供たち 20 人と先生方も応援に来てくださった。今とてもいい関係をつくりつつある。

これから商店街がどうやって元気になっていくかというのは、商店街と住民と一緒に考えていきたいと思う。サミットができるどころと商店街があるほうの道路の歩道には緑があるが、もう少し統一性のある、楽しいお花等を植えながら、みんなできれいにして、外側からいい商店街というイメージをつくりたい。市の緑化環境センターと道路課にこのことを話したら、積極的にお知恵を提供してくれるし、お力も貸してくれるというお答えをいただいた。これからのまちづくりはハードも大切だが、ソフトの面も大切だ。福祉と環境と人づくり、この3本柱でまちづくりをしていきたいと考えている。道路沿いに花を植えていくということが実際にできるようだったら、みんなですべてはボランティアをしながら一緒に汗をかく。作業をする中で人と人とのつながり、商店街と私たちとのさらによりよい関係をつくっていかれたらと思うので、ぜひまた皆さんのお力をお借りしたい。



2. 緑化について

【ご意見】

この地区はもともとグリーンパークという愛称のある土地で、しかも、市役所や公共施設が集中していて、市の顔と言える。また、この地域は並木道、パークタウンの中、都営アパートの中、千川上水沿いに緑が充実している。そこに人を呼び込んで、その人の流れが商店街のほうへも流れていくというふうにしたらどうか。緑は既にあるので、あとは遊歩道を充実して、そこへ遠方からもたくさん人が歩きに来るようにして、このグリーンパークという名前にふさわしく、まち全体を緑の公園のようにして、モデル地区として整備をしたらどうか。

また、都営アパートの建替えに伴って出る空き地の話があったが、緑の関係からすれば中央公園を拡充するという方法はどうか。管理事務所の古い建物だけは、貴重な戦争の遺産と

いうことで残して、展示ギャラリーにするなど、そういうような使い方をして、そこにも人を呼び込めれば人の回遊性が増すのではないかと。

【市長】

委員長からエコロジーライフに関する様々な提案、ポイントをお話いただきました。皆さんも関心が高い環境問題について、どうやってこの地域全体で取り組んでいくかという中で、一つは、いかに新しいエネルギーを利用していくかということがあります。電気は、原子力や火力などを使ってできているわけですが、もう少し自然の力を利用したエネルギーに変えていきたいと私も思います。本市の取り組みとしても、小学校を中心に太陽光発電のパネルを設置してきました。あと2つの小学校で全小学校に設置が終わります。小学校や市役所の屋上など、幾つかの公共施設も設置していますが、年間に発電している量が小学校2校分の消費電力量になっているんです。極めて高い率になってきているので、小学校への設置が終わった後は、他の公共施設に広げていきたいと思います。5月に開催した、吉祥寺南町でのタウンミーティングでも、吉祥寺南町コミセンでの太陽光発電の設置に関するご意見が出されました。感心したのは、いきなり市に要望せず、まずは、地域の皆さんで募金等を集めてやっていきたいと。市としても設置については、いろんな支援策を考えていきますが、まずは公共施設等の設置を検討していきたいと思ひますし、現に各家庭への太陽光発電の補助も出しているのです、ご利用いただいて、なるべく武蔵野市域からは太陽光を使ったエネルギー、電気を生み出していきたいと思ひます。



ちなみに、一つの都市でどれぐらい太陽光発電があれば、その都市の電力量が賅えるかというに関する資料があります。都市面積の1%ぐらいの面積の太陽光発電のパネルがあれば、その都市の電力量を賅えるということです。武蔵野市が10km²ですので、1%は10haですから大体、中央公園の広さに太陽光発電のパネルが設置できれば、ほぼ賅えるということです。いろんなところで積み重ねていけば、それぐらいの面積も可能ではないか、夢ではないのではないかとこの気もします。ただし、武蔵野市は人口密度が高いので、もっと面積が必要になるかもしれませんが、新しいエネルギー活用を皆さんと一緒に挑戦していきたいと思ひます。

それから2番目の視点で、都営武蔵野アパートの建替えに伴い、西側の部分で約1万m²の空き地が発生します。私も使えるものだったら使わせてほしいと東京都に言いかけたんですが、東京都のほうでストップがかかりまして、東京都住宅局の土地でしたが、東京都の普通財産に変えて、東京都全体の中で、どう利用していくか議論するそうです。平成24年度以降に議論するというので、まだ土地利用については決まらないという状況ですが、市内にある土地なので、市としてどんな利用がしたいのかということは、なるべく前倒して東京都には意見を言っていきたいと思ひます。

それと同時に、ここは中島飛行機の工場があったところです。私もこういう土地の利用の

経緯は後世にも伝えていくべきだと。特に中島飛行機武蔵製作所があったということで、首都圏で最初にB-29の空襲を受けたところであるということも含めて、平和の発信をこの地域からしていくべきだと思います。そのメモリアル的なものはないか探していたんですが、今、集会所で利用いただいているところが中島飛行機武蔵製作所の変電所で、唯一それが同製作所で残っている施設なのです。もう60数年建っていて、中島飛行機の唯一の施設だということもあって、東京都にも意見を言える場があれば行っていききたいと思います。例えば、そういうところに、中島飛行機の記念のいろんなものを集めていくなど、施設のものが残れば、アイデアとしてはいいと思うので、今後、皆さんの意見も聞きながら、東京都にも前倒しで意見を言っていききたいと思います。

それから回遊性のあるまちということで、この地域はすごく恵まれた地域だと思います。大きな公園があるし、緑が豊かです。緑町にふさわしい、まさにその形態を示しています。「グリーンパーク」の語源は野球場でしたでしょうか。この歴史に詳しい方がいらっしゃいますので、お話いただきたいと思います。

【ご意見】

中島飛行機武蔵製作所については、昭和20年の終戦後まもなく、工場が壊滅的な打撃を受けましたが、日本興業銀行から金を借りていたので、あの土地全部を国に物納しました。それが国から民間会社に払い下げられて、「東京スタジアムグリーンパーク球場」が建設されました。その後、昭和26年に平和条約が結ばれて、多摩製作所（西工場）の残った建物を改修して、昭和28年に米軍宿舎ができました。それで日本人がつくった「グリーンパーク」という言葉を米軍が使って、「グリーンパーク宿舎」となったという珍しい逆転現象となっています。

【市長】

グリーンパークは、戦後すぐに日本が名づけた名前前で、それが継承されています。緑町のこの名前にふさわしい緑豊かなまちづくりをしていきたいと思えます。ご提案いただいた道路は、サミットとグリーンパーク商店街の間の道の話だと思いますが、そこも、どちらかというと裏道的な場所です。それをもう少し緑豊かな表としての顔を整備してもいいと思えますので、いろんなところで緑をこの地域につなげていくという試み、工夫をしていくべきだと思います。



中央通りの桜並木の話がでましたが、私はどうやったらあの桜並木をよりよく保全できるのか考えています。車道が桜並木をいじめていますので、歩道を少しでも広げられないか、車道を削ってでも歩道が広げられないかと思ひまして、道路課でも技術的に可能かどうかを検討しています。ただし、車道を狭めた場合、交通に支障が出たら困るので、警察との協議も必要ですが、そういう形で桜並木を保全する。必要な更新もしていく。新しい桜並木を植えていく。同時に、サクラの根元についてはもう少し余裕ある設えができないかと思ひます。この桜並木の保全については、長期計画等での位置づけがないので、きちんとした位置づけ

をしたいと思います。これから都市計画マスタープランの見直しもします。また、景観計画という計画づくりもしていきますが、その中でも桜並木という、市にとって大きな財産としての位置づけをして、皆さんと一緒に未来永劫これを守り続けていきたいと思っています。桜並木・千川上水・中央公園を軸線として、緑と水と並木という形でつなげて、緑を生かした緑町を目指していきたいと思っています。

3. 中央通りの桜並木について

【ご意見】

中央通りの並木道に限らず、この地区の並木道は、木が大きくてよく育っていて、電線の上まで木が伸びているところが多い。この地域の電線の地中化をやることによって、木をもう少し大切に扱うことができるのではないかと。このようなこともあわせて検討いただければと思う。

4. まちづくり条例・グリーンパートナー制度について

【ご意見】

近い将来、まちづくり条例が施行される。まちづくり条例ができると、例えば、サミットなどの大型店舗の出店が決まる前に早い段階で知らせてもらえる。住民の要望も入れていくというようなことができるので、私たちも日頃から自分たちのまちがどういうまちだったらいいか話し合っておくことが大事だ。サミットが来ることがいいという人もいれば、そうでないという人もいる。いろいろ話し合っていく中で、こうだという答えを出していく。建物ができるときも、高いのは嫌だとか、どのくらいだったら許せるかということも日頃から話し合っておくと、いざというときに役に立つので、ぜひこの機会に皆さんと一緒に語れたらと思う。



また、一昨年、市から依頼があって、グリーンパートナー制度に、緑町コミセンとして参加した。これに参加することで、私たちは省エネ、ごみを出さない等の項目を挙げて、取り組んできたが、一昨年の7月から去年の7月まで1年間に1.9トンのCO₂が削減できて、1年で8万円の電気料の節電になった。これはコミセンの約1カ月分の電気料に当たる。運営委員だけではなくて、利用する皆さんにも、暑い中、寒い中をご協力いただいたおかげだ。さらに、今度は、IIステップで、ガス・水道の節約をすることになっているので、環境への配慮ということで、また皆さんのご協力をお願いしたい。

それから、市の環境政策課と住宅対策課の協力によって、雨水貯留タンクが設置されている。コミセンの前に設置して、通りかかる方に見ただけだとよかったが、施設の使い勝手が悪くなるので、今の場所に置いて、お水をまいたり、花に水をやったりということで、早速、使っている。今、特に気をつけているのが石鹸である。合成洗剤で水を汚さないようにということで、この間、呼びかけて、20人くらいの若い方たちが参加して、石鹸・重曹・

クエン酸の使い方等を実験して見ていただいた。コミセンだけではなく、この地域に住んでいる皆さんに普及していけたらと考えている。

5. 商店街について

【ご意見】

グリーンパーク商店街に住んでいる。あの商店街はできて、50 数年たつが、買い物をされる方が商店街の中を通るようにセッティングされていた。近年、バス通りのほうに、お店の出入口を向ける商店も出てきたが、本来、中を通して、最初から最後まで行けば、いろんなものが買えるという商店街だった。サミットなどの大型店舗が出店すると、どこでも例外なく、商店街は寂れる。個々の商店街では対応ができない。従来あった大店法もいろいろと変えられて、規制の弱いものになってきている。そこに来て、サミットが午前 1 時まであそこで営業するという。これは今から手を打っていかないといけないと思う。サミット側は、午前 1 時までの営業を変える意思がないという趣旨のことを発言されていた。

バス停については、なぜあそこにバス停を移動しなければいけないのかというと、サミットの建物の中に 100 台ぐらい駐車場ができるからと聞いた。その駐車場ができる出入口のために、今のバス停が移動するということだ。駐車場をつくらなければ、バス停を移動する必要はない。バス停を移動させること、あるいは、午前 1 時まで営業するということについて、市の当局あるいは市長は、法律はいろいろとあると思うが、市民のためにリーダーシップを発揮していただきたい。あそこに常時 100 台以上の車が止まるということは、バスが排ガスを出すと同じように車があそこに夜中の 1 時まで来る。子供たちの交通安全の問題、あるいは環境が悪化する問題などがある。財政としても、サミットの収益による税収は、中央に吸い上げられていくから、市あるいはあその周辺住民にとってメリットは何もない。したがって、法律云々ということもあるが、市長及び市の当局がよく話し合いを持ってリーダーシップを発揮していただきたい。



6. 都営住宅について

【ご意見】

都営住宅のあの空き地について、市長は前倒しで要望していくとお話をされたが、今まで建替えて空いた土地を見ると、民間に売却して、そのあと高層マンションを建てるというようなケースが多い。この場合も民間に売却するようなことだけはやめてほしい。今から、市としていろんな要望をしていただきたい。

それと、都営住宅に入りたいが、なかなか入れないという人がたくさんいる。基準もいろいろあって空き家はあつたが、もっと都営住宅をたくさんつくってほしい。仮に都営住宅が建たないとしても、市民で空き地を十分に利用していくようなことを考えていただきたい。また、ここ何年か市営住宅は新規には建っていないが、市営住宅が今どういうふうになってい

るのかということも聞きたい。

【市長】

まちづくり条例については、9月の議会で条例を提案します。施行は、来年4月以降と考えていますが、その中身は大きく2つあり、1つは、いろんな開発が出てきますが、その情報をなるべく早い段階で地域に提供して、いろんな意見を吸い上げていくという仕組みです。これまで、大規模開発に関する様々な課題が出ました。サミットの件もそうですが、吉祥寺東町の法政第一中高跡地の問題だとか、三鷹駅北口のツインタワーの問題などありましたので、事前に早い段階で、そういう計画をまずは地域の方に伝えていってほしいということを条例で定めます。それについて前倒しで皆さんからも大いに意見を言っていただきたいと思っています。



もう一つは、地域のまちづくりを地域の皆さんで、話し合っやっていこうという仕組みです。基本的には、武蔵野市のまちづくりは、基本構想から長期計画、それを一部見直しして調整計画になりましたが、そういう大きな根幹的な計画を受けて、もう一つはまちづくりからすると、都市マスタープランという計画があります。これも見直しを今後予定していますが、都市マスタープランはどちらかという、全市的なまちづくりと各地域単位というのか、例えば、緑町だとか大括りでのまちづくりの方向性を出すものです。例えば、緑町2丁目の範囲に限って、まちづくりをみんなで考えたいということであれば、まちづくり条例に基づく地区計画を定めることが皆さんによって可能になってきます。小さい狭い範囲でのまちづくりは、条例を使って、このまちではこういうまちづくりがふさわしいという方向性を議論し、定めていただいて、それに合った形で、建物の基準をどうするのかということは、例えば、地区計画などの個別の制度を使って、高さや用途を決めていくとか、そういうことにつなげていただきたいと思っています。いずれにしても、まちづくり条例の提案に向けて最終的な詰めをしていますので、議会にも説明しますが、市民の皆さんにも丁寧に説明をしていきたいと思っています。

緑町コミセンにおける環境への取り組みについては、大変うれしく思います。電力の削減をしていただき、雨水貯留タンクも設置していただいていますので、ぜひほかのコミセンの皆さんにも伝えていきたいと思っています。特に、洞爺湖サミットでも、2050年には、現在の温室効果ガスの排出量を少なくとも半減しようというようなことがありました。それは長期的な目標ですが、当面の日本の目標は、京都議定書で掲げた2012年までに6%の削減をすることです。武蔵野市では、それを前倒しに、あと2～3年のうちに6%削減を目指そうということを経営基本計画で言っていますので、その具体的な取り組みをもう少し皆さんに丁寧にお願ひしないといけないと思います。具体的な取り組みについては、環境市民会議の中で議論いただいていますので、それを前倒しして、私のほうからPRをしていきますと、今、

1 日当たり市民の皆さんはCO₂換算で申しますと、約 11k g のCO₂を出しているんです。いろいろエネルギーを使っていることを引くくめて、そういうふうに使っている。それを何とか1日7～8%ぐらい下げしてほしいというのがお願いです。つまりグラム数で申しますと、1日 800 グラムぐらい下げしてほしいというお願いです。800 グラムというのは一体どの程度なのかということ整理しているところですが、例えば、クーラーの温度の設定を少し上げていただく。上げていただくという以上に、使わないということがあるんですが、あるいは、お風呂を長風呂しないだとか、シャワーにかえていくだとか、家族が何人かいらっしやるんだったら、なるべく連続して入っていただく。そういうこまめな工夫を積み重ねていただければ、1日1人800グラムのCO₂の削減というのは可能です。もう少しわかりやすい案内を出していきますので、ぜひ取り組みを進めていただきたいと思います。家庭での取り組み、それから電気をいかに少なくしていくか。使用料を少なくしていくか。皆さんなかなか、どれぐらい削減したかわからないと思われがちですが、電力会社の領収書を見ていただくと、昨年と同じ月の皆さんの家庭での使用料はいくらですと書いてあるんです。目標としては、昨年に比べて1割ぐらいは下げようという協力をお願いしたいと思います。

グリーンパークの商店街については、私も大変気にかけています。私はこの地域で生まれ育った人間ですし、グリーンパーク商店街に行くというのは、子供にとっては毎日大変楽しみな時間だったんです。母親に手を引かれてグリーンパークに行くというと、遊びを投げ出して行ったぐらいです。母親もグリーンパークの中でパートをしていましたが、昔はすごい人混みでした。子供だからそう思ったのかもしれませんが、従来の地域密着型の商店街がまた再生してほしいという思いがあります。



サミットは今の時点で止めることはできません。しかし、サミットが出店することによって、いろいろな変動要因を吸収していくような前向きな議論をしていかないと厳しいのではないかと思います。サミットに来られたお客さんをいかにグリーンパークのほうに結びつけていくかということを前向きに考えていただきたいと思います。商店街が外側からひなびた感じがすると、行きたがらないですね。緑もあって、向こうに何かにぎやかで、きれいな感じがするということがあれば、サミットに初めて来たお客さんが、道路を渡って向こうに行ってみたいと思わせることが大切です。守りの姿勢ではなくて、攻めの姿勢で、お客さんに来てもらうような、そんな取り組みを商店街の皆さんと一緒に知恵を出し合ってやっていきたいと思っています。

それから都営アパートの建替えに伴って、暫定的に空き地になるような場所については、民間に売り渡されるようなことはあまりよくないと私も思いますので、東京都としての公共的な利用の中で、こちらで提案できるものがあれば前倒しに提案していく。東京都としては特に利用がないということであれば、市独自の利用を次のステップとして提案できたらと思います。

都営住宅の増設についての要望については、これは都にお伝えしたいと思います。市営

住宅については、現在、市の考え方としては、現在の市営住宅の戸数を維持していくという事ですので、古くなった市営住宅については、戸数を確保した中で新しいものに変えていくというスタンスで考えています。

7. グリーンパートナー制度・ごみ減量協議会・都営住宅空き地について

【ご意見】

私たちの緑町のパークタウン自治会は、今年からグリーンパートナー事業者として認定された。この制度は、緑町コミセンが先発して取り組み、とてもよいことだという影響を受けて連鎖したので、こういう形で世の中が少しずつ変わればと思う。私たちがグリーンパートナー事業者になった後に、私たちの大家である都市再生機構が、今まで街路灯に、白熱灯と蛍光灯を両方使用していたが、全部蛍光灯に取り替えた。このため、28ワットを使用していたところを、23ワットに落としたが、大変明るく一つ置きでもよいのではないかという話が出ている。



また、ごみ減量協議会において、いかにしてごみを減量させるかを検討し、このことがCO₂の削減にもつながるのでお手伝いをしている。市のごみ総合対策課には優秀な職員がたくさんいるが、力を発揮できていないと思う。武蔵野市の職員は、能力の高い人が多いので、市民の側からお願いをするなり、協働しながら、作業をやっていくことでお互いに高められるということを実感した。私は、クリーンセンター運営協議会の一員である

が、ようやく、今までの歴史的な経過やごみの関連の資料室ができるということで、20年以上言い続けてきたことが実現できて、よかった。

東京都の未利用地についてだが、市が私たちの自治会に対して、旧緑町運動広場をフットサルの競技場にすると言ったが、狭いところでやるのではなくて、東京都の未利用地が中央公園すぐ隣にできるのであれば、3面造っても2,700㎡ぐらいだと思うので、これぐらいのスペースを青少年の育成などを含めて活用するために、東京都にぜひお願いをしてもらいたい。

最後に、中島飛行機の工場跡地ということで、都営住宅のところは武蔵野にとっても非常に大切な場所であり、この倉庫のほかにも、当初から残ったカシの木がある。これらは、やはり生きている証人であると思う。だから、私たちは、モニュメントとして残しておきたい。西東京市の図書館では、西東京市で発掘された爆弾の破片などを展示している。このように、武蔵野市が中島飛行機の関係で空襲を受けたことも、目に見える形で残してほしい。

【市長】

CO₂の削減については、具体的な策をこれから提案していきます。市内の街路灯についても、なるべく省エネを図りたいということで、省エネタイプのものに取り替えていきます。それから、優秀な職員がたくさんいますので、大いに地域で引っ張っていただきたいと思

ます。私も地域に出てほしいと言っていますので、職員と一緒にいろんなことをやっていただけたら、ありがたいと思っています。

クリーンセンターについて、資料室は、場所の確保が難しく開設していませんでしたが、宣伝したい資料はたくさんありました。例えば、「クリーンセンターの今昔 そして未来 パートナーシップの 20 年」という冊子では、市民の皆さんと一生懸命このクリーンセンターの場所を決めたとか、歴史の経緯が詰まっています。これらを展示して、必要な皆さんには、お渡ししたいと思いますので、ぜひ施設の利用・活用をいただきたいと思います。

東京都の未利用地については、皆さんの意見も聞きながら、東京都に要望していきたいと思っています。中島飛行機に関連するいろんな痕跡等については、空襲を受けたカシの木もあり、そういうものも含めて大切な痕跡だと思いますので、保全の方向で働きかけをしていきたいと思っています。